

雲北陵月報

No. 415

令和2年3月9日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

令和元年度 出雲北陵高等学校 第一二一回 卒業証書授与式

3月2日 本校体育館

春とはいえ肌寒い朝を迎え、日差しが時々顔を覗かせる3月2日、第111回卒業証書授与式が挙行された。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来賓と在校生の参列を取りやめて行われた。国歌が斉唱され厳粛な雰囲気の中、171名の代表として勝部小夏(36北陵)さんに水谷厚志学校長より卒業証書が授与された。

式辞の中で、学校長は、卒業生の様々な分野での輝かしい功績を称え、るとともに、ヘレン・ケラーの「希望は成功に導く信仰であり、希望無くしては成就できない」私の三重苦は、神様がくだされた運命」などの言葉を引用して、「前途に立ちほだかる苦難を前に、心の中に『希望の火』を灯し、若さという武器とともに、皆さんの進むべき道を探す力として欲しい。そして、今日がその日として新たなスタートを切ってください」と激励の言葉を贈った。

卒業生を代表して、松本澄佳



学校長式辞

(35向陽)さんが春の野外活動やキャリア教育関西研修旅行、体育祭文化祭などの学校行事を振り返り、短かった3年間で大きく成長した自分を語った。また、大学受験を通して先生方や両親の支えに感謝するとともに、友と励まし合いながら夢を叶える喜



答辞(代表 松本 澄佳)



卒業証書授与(代表 勝部 小夏)

びを実感し、夢を追い求められることが何より幸せなことであると述べた。
理事長とPTA会長の祝辞は、時間の都合で文章により配布された。その中で理事長は、「仕事を通して自己の能力や興味を膨らませ、成功も失敗も、すべてを我が師として向上し、豊かな生活をして欲しい」とお祝いの言葉を贈られた。
式の最後は、全員で高らかに校歌を斉唱し、卒業生は参列者の大きな拍手に見送られながら、思い出深い学び舎をあとにした。

卒業生受賞者一覧

日本私立中学高等学校連合会会長賞

白根美優(35平)

島根県高等学校体育連盟

(卓球部 優秀選手賞)

山本駿介(32北陵)・武 凱(32霸)

井上友希(33北陵)

島根県吹奏楽連盟表彰

土井神奈(35境)・松下弘樹(33出)

藤山沙希(36後藤)・佐藤瑞希(32平)

島根県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部表彰和上賞

郷原隼人(35出)

バスケットボール専門部表彰和上賞敢闘賞

門脇美羽(32北陵)

島根県高等学校野球連盟表彰

大倉一真(35北陵)

島根県高等学校体育連盟功労賞

日野愛理(32出)

皆勤賞(3カ年)

矢野龍生(31出)・勝部 駿(32北陵)

岸本都和(33湖陵)・高木寛太(33出)

松下弘樹(33出)・出羽七海(33平)

森脇水都士(34鶴)・原 和樹(36西)

福島夕映(36斐)・藤山沙希(36後藤)

特別教育活動功労賞

(団体賞)

・合唱部

・吹奏楽部

・写真部

・男子バスケットボール部

・卓球部

(個人賞)

写真部

・吾郷真菜(32出)

ソフトテニス部

・日野坪雄大(33出)・福島悠馬(32斐)

・今岡純也(34河)・矢田和真(34河)

なぎなた部

・日野愛理(32出)

創立一二〇周年記念誌発刊

中学副校長 高橋 豊

創立百十周年という大きな節目を令和元年に迎えたことには時代の縁を感じ、この上ない喜びです。
さて、この節目に発刊する今回の記念誌は、ここ十年の軌跡を中心にまとめています。また写真を多く使い、生徒の活躍ぶりを身近に感じていただきたいと考えて編集しています。
是非とも、皆様にご高覧いただければ幸いです。

卒業生会入会式

時 2月28日
於 本校体育館

卒業式を翌週に控えた2月28日、本年度卒業生17名の卒業生会(和風会)入会式が挙行された。卒業生会の森脇俊樹会長には、「卒業後は、挨拶と本校の校訓である「柔しく剛く」の精神を胸に、誇りを持って頑張つて欲しい」と力強いお言葉で卒業生達を激励いただいた。
今後、卒業生会の輪が更に広がっていくよう努力したい。
(卒業生会事務局…竹内康貴)

卓球部

第59回大阪国際招待卓球選手権大会

時 2月14〜16日
於 大阪府立体育会館

〈ジュニア男子シングルス〉
ベスト8 山本 歩(22歳)
〈ダブルス〉
ベスト16 山本 歩・原田哲多(14歳)組
○大会総評
高校2年生以下の選手が出場するジュニアの部で、本校としては14年ぶりにランキング入りを果たすことができた。今後も更に厳しい練習に取り組み、常時全国大会で上位入賞できるように頑張りたい。
(顧問 古瀬泰之)



ベスト8入賞を果たした山本歩

第62回 全商情報処理検定合格者

時 1月19日

〈3級合格者〉

伊東 仁(21北)	濱田 宙大(21北)
井上 菜々花(21北)	椿 麻依(21北)
横原 瑠希(21北)	三代 夕楓(21北)
餅川 愛華(21北)	足立 一馬(22北)
金原 寛拓(22北)	恩田 太陽(22北)
尾原 尚哉(22北)	福島 巳斗(22北)
金坂 太輝(22北)	松本 優太(22北)
持田 翔太(22北)	山腰 洋平(22北)
佐藤 光里(22北)	出羽 茉緩(22北)
山田 琴未(22北)	山本 愛華(22北)
井上 聖斗(23北)	尾添 晴親(23北)
金築 公平(23北)	高野 幸成(23北)
新宮 晴稀(23北)	寺本 昂心(23北)
平野 海心(23北)	福田 柁斗(23北)
福田 智健(23北)	森山 柁斗(23北)
山崎 誠矢(23北)	渡部 康太郎(23北)
安達 結香(23北)	梶谷 和(23北)
川上 真央(23北)	高橋 まり(23北)
玉木 羅夢(23北)	鶴原 遥奈(23北)
廣瀬 凜(23北)	福島 光(23北)
福岡 春佳(23北)	布野 可菜美(23北)
古川 理名(23北)	松浦 綾乃(23北)

令和元年度音楽コースクラスコンサート 中止のお知らせ

毎年の恒例となっております音楽コース1・2年生によるクラスコンサートを3月15日(日)に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスに伴う様々な状況を考慮し、今年中止することと致しました。ご理解のほど宜しくお願い致します。

第18回出雲北陵高等学校進級展

日 時 3月28日(土) 9時〜17時
3月29日(日) 9時〜16時

場 所 出雲文化伝承館 縁結び交流館
(出雲市浜町520)

入場料…無料

多数のご来場お待ちしております!

第二十二回 中学校卒業証書授与式

時 3月9日 本校黎明館

いつまでも仲良く



副校長 高橋 豊

皆さん、ご卒業おめでとうございます。
縁あって本校に集った、かけがえない同級生と、いつまでもいつまでも仲良くやってください。これが私からの一番の願いです。
自らが決意し、心を決めて出雲北陵中学校に入学してきた皆さんです。知らない者同志の集団が、ともに過ごしてきた3年間の日々こそ一番の財産です。「縁と人情」でつながっている仲間
は、きっと先々もかけがえのない存在になるはずです。ずっとこれからも同級生を守ってあげてください。
今、私は、君達の将来のことが一番気になるところです。卒業とは旅立ちだからでしょう。私の最上目標は、子ども達が自立(律)した人間になってくれることです。依存や甘えから卒業し、大人への道に向かって、自らが課題を持ち、決断し、行動していただくさ
い。
これからも、ただただ「坂道登れ」。

輝く未来に向けて



三年担任 鈴木 雄介

中学3年生33名の皆さん、卒業おめでとうございます。
担任をさせていただいて2年になります。担任が決まった時には不安や戸惑いがありました。でも、それは皆さんのほうが大きかったと思います。皆さんの難しい状況がありました。が、本当に良く頑張ってくれました。皆さんは本当に素晴らしいです。
私はいい担任ではなかったかもしれませんが、厳しく、嫌なことを言う担任だったと思います。でも、伝えるべきことは伝えなくてはいけない、という思いを持って担任をさせていただきました。この先、皆さんの未来が輝くために必要なのは、徹底して伝えましたし、一切妥協はしませんでした。義務教育が終わる、これからの人生は自分で決めること、責任を持つべきことが多くなります。自分で決めた道を全力で楽しみながら、徹底的に向き合ってください。私自身もまだまだ成長の途中です。皆さんに負けないくらい成長したいと思っています。そして、それ以上に皆さんの成長と、充実した人生を創ってくれることを願っています。皆さんならそれができます。自分を信じてください。一人ひとり、それぞれが素晴らしい人をたくさん持っています。
3年間、本当にお疲れ様でした。そして、楽しく、充実した時間を有難う。皆さんの輝く未来を楽しみにしています。



★卒業記念品★

ワイヤレスマイク付き

拡声器スピーカー一台

中学校卒業生表彰者

日本私立中学高等学校連合会会長賞
三宅 輝也(中3 塩治)

島根県中学校体育連盟会長賞

〈卓球部〉

杉浦 大和(中3 長瀬)

〈女子バスケットボール部〉

春日美津紀(中3 湖陵)

山陰中央新報スポーツ功労者受賞

去る2月26日に山陰中央新報社にて令和元年度山陰中央新報スポーツ優秀選手賞の表彰式が行われ、昨年7月に行われた全国中学生大会における団体優勝が評価され、中学なごなた部が同賞を受賞しました。今回の受賞が全生徒の励みとなれば幸いです。支えてくださった皆様に感謝致します。



団体優勝に輝いたなごなた部

中学校

NIE教育 冬季セミナー発表会

時 2月22日

於 山陰中央新報製作センター

本校は、平成28年度からNIE教育の指定校となり4年目を迎え、新聞を活用した教育を実践している。今年度は2ヶ月間7社の新聞が毎日配達され、いつでも自由に新聞を読める環境を整えた。

セミナーでは、県内の小中学校、高校の実践指定校8校の教員が一年間の成果を発表した。本校の取り組みとしては、総合的な学習の時間において、1年生がふるさと学習、2年生が職場体験、3年生がオーストラリア語学研修旅行についてまとめたことなどを発表した。各校の発表を聞くことで、新聞で教育の質を高める方法について理解を深めることができた。



セミナーの様子

令和元年度

「総合的な学習の時間」発表会

時 2月19日

「ふるさと島根から世界へ」人・自然・文化」という主題のもと、各学年がそれぞれのテーマで活動した成果を発表しました。

中学1年

『松江研修を通して』

中学1年生は、昨年の11月11日に行った松江研修に関し、班ごとに研修の内容をまとめて発表しました。

出雲から近い松江ですが、訪れて初めて知ったことがたくさんありました。またこの研修を通して、コミュニケーションの大切さ、計画性の重要さを改めて感じました。この研修で得たことをこれからの学校生活に生かしていきます。



中学1年1組



中学1年2組

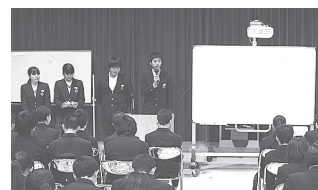
中学2年

『職場体験学習を通して』

中学2年生は、出雲市内の15事業所にご協力いただき、昨年の11月11・12日の2日間にわたり、職場体験学習を実施しました。今回はその体験学習の振り返りを発表しました。

どの事業所においてもコミュニケーションの大切さを改めて学びました。

併せて、働くこととの意義、働く上で大切にしなければいけないことを知ることができました。今後学んだことをこれからの学校生活に生かして欲しいと思います。



中学2年

中学3年

『オーストラリア語学研修旅行を通して』

中学3年生は、昨年11月3・11日に行った語学研修旅行について発表しました。

オーストラリアの文化・生活などについて、1年生でも理解できるように簡単な英語を用いて、分かりやすく説明していました。

この研修を通して、英語でコミュニケーションを取ることを楽しさや周囲の人と助け合うことの大切さを改めて感じる事ができました。



中学3年

どの学年の発表も素晴らしく、クイズを取り入れたり、英語を取り入れたりと、様々な工夫がなされていました。当日は保護者の方々にもご参加いただき、良い保護者研修の場になりました。有難うございました。

作品と研究

2月12日、島根大学生14名が本校に來校し、特進コース2年5組にて「大学」をキーワードに100分の授業が実施されました。これは高校生が大学の魅力に気づくようにと島大生が企画した授業です。「自己紹介」、「アイスブレイキング」のシルエットクイズで緊張をほぐしてから、グループごとに大学生のお話を聞き、交流の時間を持ちました。生徒達は生き生きとした表情で「先生」の話を聞きながら、熱心にメモをとったり質問したりしていました。生徒の「振り返り」の一部を紹介します。



奥井 寛太 (25歳)

勉強面では、大学というものは「自分の興味のあるものを伸ばす場所＋興味のあるものを見つけ深く学べる場所」と説明していただいた。高校の時よりも専門的な学びになり、高校時代に勉強が好きでなかった人も「自分の興味のあるもの」という点で勉強や研究を頑張ること

ができている人が多いらしい。また、レポートや課題、テストはノルマではなく、自分のためになる材料だということも教えてもらった。これは大学に限らず、高校でも同じことが言えると思う。課題を嫌なものとして捉えるのではなく、自分の力になるプラスのものとして考えていきたい。生活面では、二人の方に話を聞いた。印象的だったのは「自由であること」以外の大学の魅力についてである。ある方は、遊びにお金を使ってしまうアルバイトにいらそしんでいるうちに、気づけば勉強に費やす時間がなくなっていたそうだ。この失敗から時間とお金を「逆算して」考えるようになりその結果、勉強や好きなこと、アルバイトなど多くのものが充実して回るようになったという。「逆算して」つまり「計画性を持つて」行動することが大切だと分かった。また、大学生活の意義の一つとして、社会人の「予習」となる点を挙げておられた。計画性を身につけなければならず、自分のやったことは全部自分に返ってくるので責任感が伴うと言っておられた。その一方で、「失敗しても大丈夫」という言葉も印象に残った。大学では周りの教授から生活面のアドバイスをしてもらえ、助けてもらえるそうだ。この言葉を聞いて、大学生活での「自由」以外の魅力について、理解できた気がする。

生活面のもう一つの魅力は、大学は人と深く関われる場であるという

ことだ。個人的にはこれに一番魅力を感じた。サークルや部活動を通じて、他学部、他学科の学生とも関わることができるといい。またその人達と関わることで、考え方の違いから視野が広がるという。僕も多くの人と関わって自分の世界を広げる努力をしていきたい。また、サークルではちよつと興味があることとすぐくやりたいことを両方一度にできると聞いた。そういった意味でサークルや部活動は、自分の好きなことをして楽しみながら、学び成長できる場所だと僕は感じた。

勉強面では、大学でも高校でも同じようなことが言えるとはつきりわかった。やることは違っても自分自身のやる気、意欲次第で何もかも変わってくるということだ。好きなことを深く学べ、好きなことを見つけられる大学。そこへ行くために、今は嫌なことでも自分の力になっているということをしつかり理解し、今できることを精一杯すればいいと思った。また、サークルというものの存在にもとても興味を持った。僕はいろいろなスポーツをしてみたい。でも部活するほどではない、というのがたくさんある。それが多くの人と多種目できるサークルに憧れを抱いた。さらに以前の僕にとって、大学進学後は教室もないのに友達を作れるのかということも不安要素の一つであった。このサークルを通してグループに入り、仲良くなれるビジョンが見えた。

大学生の話を聞き、大学への憧れが大きくなった気がする。「計画性を持つて行動すること」「人とのつながりを大切にすること」「勉強に興味を持つこと」を大切にしなければいけないのは、今の高校生活にも共通して言えるということが分かった。嫌なことでも自分のためになるという発想の転換を起こしていきたい。僕は教育学部に進学したい。大学生になるのもそう遠くない未来だと今日思った。今のうちから教員として必要なコミュニケーション能力を養っておきたい。そして大学生の先輩も言っていた「人についてしっかり知る」、「自分の世界を広げる」ということに僕は大きな意味を感じている。

大学生の話を聞いて、大学に入るために今できる「勉強」を頑張っていきたいと心から思った。



今月の
1枚

「四季を切り取る」(切り絵)

三宅 輝也 (中3)